

紫波 水町 2003

SHIWA TOWN SINCE 1955
環境と福祉のまちづくり情報誌

【No.627】
7月号



北上川コンサート 2003「水の音原風景」

特集

出かけよう 自然の調べを聴きに



シリーズ2 肝炎を正しく理解しましょう / みんなで考えよう 市町村合併
精神保健福祉ボランティア / まちの話題 / 情報掲示板
フォト・歳時記 / 町内中高生の作品

裏表紙には、町内のおもな施設の電話番号・有線番号が掲載してあります。

施設名	電話番号	有線番号
町役場本庁舎	075-2200	1000
町役場第一階庁舎案内	075-2200	1000
第二庁舎	075-2200	1000
第三庁舎	075-2200	1000
中央公民館	075-2200	1000
健康センター	075-2200	1000
地区公民館	075-2200	1000
紫波中央駅待合所	075-2200	1000
政策経営課内	075-2200	1000
672-2111		
内線3232		

問合せ

町役場本庁舎一階庁舎案内、第二庁舎、第三庁舎、中央公民館、保健センター、地区公民館、紫波中央駅待合所
政策経営課内 ☎ 672-2111 内線 3232

配布場所

紫波ネットつづり表紙を用意しました。
紫波ネット総合版一年分がひとまとめにできます。どなたでも必要な枚数を差し上げますので、ご利用ください。
お知らせ版はカレンダー掲載の都合上、つづり用の穴を空けていません。ご了承ください。

紫波ネット の広報つづりが できました



..... 目 次

特集

出かけよう。
自然の調べを聴きに。
北上川コンサート 2003
「水の音原風景」
開催記念対談 3

シリーズ2
肝炎を
正しく理解しましょう... 8

シリーズ7
みんなで考えよう
市町村合併 9

精神保健
福祉ボランティア ... 12

まちの話題 14

情報掲示板 18

フォト・歳時記 20

町内中高生の作品 ... 20

町長メッセージ

昨年の反省のもと

災害対策訓練を終えて

町民が、安心して住める事が行政にとりて最も基本的な課題であります。

町では災害が発生したとき、またはその可能性が高いときには、災害対策本部を設置して対策にあたっています。

昨年の七・一一大雨災害では多大の被害と教訓を残し、また先日南三陸沖地震でも損害を被り、二年連続して大きな災害を受けたことから六月二十一日に、昨年の大雨災害を想定した訓練を実施しました。当時の苦い経験を思い起こし、多くの住民の皆様が参加してくだされ、あらためて災害対策を充実しなければならぬことに決意を新たにしました次第であります。

また、今回の訓練に際して、関係団体のご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

昨年の災害復旧は終了し、現在は次の三点について実施しております。

一 被災した施設の機能強化
二 光ファイバー網を利用した水位監視態勢の強化による早期対応

三 民間の防災気象情報サービス活用による早期予防対策と、適正な対応による被害の拡大防止および効率的な人員配置

さらに長期課題として県と国に対し、赤沼川・才智川・甘木地区の整備を強く要望しております。

「天災は忘れた頃にやってくる」「備えあれば憂いなし」といいます。訓練を重ねることで災害に万全を期してまいります。ご協力を切にお願い申し上げます。

(藤原 孝)

この夏、町でちょっと変わったコンサートが開かれます。テーマは「失われてゆく水と日本の音を見直す」。今回は、このコンサートを主催する NGO ウォーターネットワークの代表である柴崎勉さんと藤原町長の対談を中心に、コンサートのプログラム、さらに先日開催された森林フォーラムの様子をお伝えします。

出かけよう 自然の調べを聴きに

主催者

NGOウォーターネットワーク
からのメッセージ

日本の伝統文化は日本の豊かな水に育まれてきました。また、豊かな雨は国土の七割にも及ぶ森を育て、日本の「木の文化」を生み出してきました。伝統楽器の尺八には竹、箏には桐、鼓には桜というような木の素材が使われています。「間」を特徴とする伝統音楽は、その「間」に聞こえる「風のそよぎ」「鳥のさえずり」「川のせせらぎ」などの自然音と一体化する中にその本質を見ることが出来ます。しかし、美しい水が失われゆくように、伝統音楽も日常生活の中から馴染みのないものになりつつあります。

このような状況を背景に、失われゆく「水」と「日本の音」を次世代の子供たちへ伝えてゆくという考えから、森と水、川とのつながりを日本の楽器で描くコンサートを開催し、紫波町の音風景を奏でます。

今回の北上川プロジェクトでは、東北最長の川・北上川流域の紫波町において、「音」という視点から川と私たちの命や文化とのつながり、森と川と海とのつながりを実感し、水環境、地球環境に対する新たな気づきを感じていただきます。



国内外で和楽器を使い コンサートを開催

藤原町長(以下、町長) 今回は、紫波町でコンサートを開いていただくことになり、感謝申し上げます。多くの子どもたちが期待していると思います。

柴崎勉さん(以下、柴崎) 「ちびっこ」今回ご協力いただけるということで、たいへん感謝しております。

町長 今までに、このようなコンサートは

何カ所で開催しましたか。

柴崎 一九九六年に埼玉県と東京都をつなぐ荒川からスタートし、大小合わせて二十八回実施しています。国内では岡山の後楽園と旭川で川をテーマに実施しました。海外では、二〇〇一年に南米で、世界で三大瀑布といわれるイグアスの滝を背景に、デモンストラクション演奏をしました。さらにそこからパラナ川・ラプラタ川をたどり、四カ国、七カ所を回りました。

水は国境を自由に越えますので、自国の環境だけ考えるというわけにはいきません。

柴崎勉
NGO ウォーターネットワーク代表
&
藤原町長

見直そう。川のすばらしさ

～ 失われゆく水と音 ～ 次世代の子供たちへ伝えるもの

北上川コンサート 2003

「水の音原風景」

日 時 8月9日(土)
会 場 河川グラウンド(北上川河川敷)
雨天の場合、サン・ビレッジ紫波
入場料 無料
問合せ 環境課 ☎672-2111 内線5521
☎676-6103

午後3時30分～
5時30分

環境体験
プログラム

NGO ウォーターネットワーク
主催の北上川の水環境に合わせた
体験プログラム

NPO 紫波みらい研究所主催の
ボート体験、釣り大会

午後5時30分～
5時45分

基調講演

「水清ければ月宿る」 講師 中野英明
川を知る会会長、蟠龍寺住職

午後6時～
7時45分

「水の音原風景」
コンサート

尺八、箏、十七弦、大鼓、小鼓、コンピュータプログラミングなどを使った
コンサート

第1部

曲目 「水琴窟の庭」 「瀬音」 「濤声」 「水分の森」

第2部

曲目 「Moon Forest」 「月下流水」 「waves」

出演者 田辺冽山(尺八) 杉浦邦雄(大鼓、小鼓)
桜井智永(箏、十七弦) 田村法子(箏、十七弦)
語 り 佐藤博子

地球規模の水の循環とか、つながりを広く伝えていきたいと思っています。

町長 海外公演のときも、すべて和楽器で演奏するんですか。

柴崎 そうです。初めての楽器ということでものすごく反応がありますね。特に鼓は珍しい楽器らしく、「あ、おー」とか掛け声を出しますね。演奏が終わると立ち上がって拍手が鳴り止まないこともあります。

われわれの楽曲は、伝統的な間の多い静かな楽曲だけではなく、一部シンセサイザーやコンピュータを使ったダイナミックな曲もありますので、若い人たちにも伝わる音楽ではないかと思っています。

町長 それだけの楽器で演奏するというのはすごいですね。

野外コンサートと体験で「水とのつながり」を見直す

町長 わたしの子どもの時代は、北上川で水泳を覚えたものです。それこそ当時は、橋の代わりに渡し舟があり、綱が一本引かれてあって、そこを舟が行ったり来たりす

る。泳げない者はその舟に乗せられ、川の真ん中あたりで投げ込まれました。水を飲みおぼれるんじゃないかと思うと、先輩たちが泳いできて助けてくれた。もう、しょうがなく泳ぎを覚えるようなものでした。今の子どもたちは逆に、「川は危ない所だから行くな」と言われていますよね。

柴崎 そうですね。やはり実際触れることで、その本質を知ることが欠けていると思います。われわれも、音楽や音などを通じて五感で水の大切さ、川の大切さを知ってほしいなと考えています。

町長 歴史を振り返って、なぜ紫波が栄えたかといつと、やはり川なんです。昔、近江の商人がここまで足を運んだのは、金が目当てだったんじゃないかと言われています。

平泉文化があれだけ栄えたのも、この辺りで砂金がいっぱい採れたからです。近江商人はここにはない生活物資を持ってきて、金とか米と交換する場だったと思われます。

柴崎 昔は川が交通の手段で、文化も人も行き来していたわけです。今は、新幹線とか高速道路とか、陸上のつながりを中心になってしまいました。

わたしたちは、もう一度、水とのつながりを見直すという啓発的な活動を中心にしています。今回のプロジェクトも「環境と文化」という視点から、水とのつながりを感じていただくということで、上流から河口までつないでいくという「野外でのコンサートと環境体験のプログラム」を、複合的に実施しています。水の多面的な姿を知り、また、実際に体験をしていただいて、最後はコンサートで心の奥底に感動を伴ったメッセージを伝えようというものです。

今回は紫波町でプロジェクトを実施させていただくことになりました。今後はぜひ北上川流域全般という視点から、実施していきたいなと考えています。

ブナの森が造り出す町の水源に驚く

柴崎 町では、「循環型のまちづくり」とか「ごみの問題」に、積極的に取り組まれているそうですね。

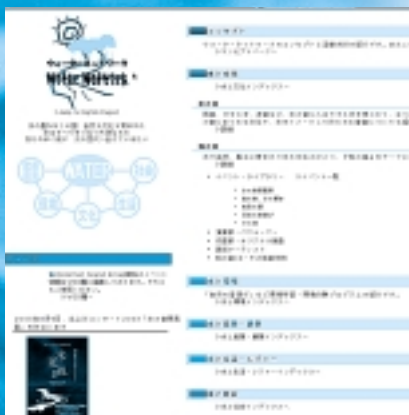
町長 ええ。ただそれを推進するための原点は、子どもへの環境教育だと考えます。

子どもたちが実際に体験し、そして、親になつて、さらに子どもに伝えていく。その実現のためには、まず小学校時代が大事というところで、一昨年制定した循環型まちづくり条例も小学生たちが理解できるように作りました。

柴崎 町の「新世紀未来宣言」や、上平沢小学校の建物は、すばらしいと思いました。美しい水をはじめ、昔の人は本当に資源を大切に使う循環させていた。もうたいていという気持ちで伝統的な生活習慣としてあったと思うんですね。しかし現代生活では忘れ去られてしまっています。もう一度、そのころの日本人が持っていた心や伝統、文化などを、次世代へ受け継がせたいというのがプロジェクトのテーマです。

紫波町の取り組みとわれわれのプロジェクトは相通じるものがあります。新世紀未来宣言の内容は、そのままコンサートの物語になると思うほどでした。

それに、紫波町にはすばらしい水がありますよね。水分神社とその奥の水源を拝見させていただき、あれだけの量の水が枯れることなく湧き出ていることにびっくりし



紫波町でのコンサートを伝える NGO ウォーターネットワークのホームページ。会の活動やコラムなど充実した内容になっています。
<http://www.waternetwork.org>



ました。

町長 まあ、量的に若干の変化はあるんですが、どんな日照りでも一日量二〇〇〇トン以上は湧いています。森がいんどしょうね。あの奥がブナなんですね。

柴崎 ブナの森は水のダムと言われるぐらいですから。わたしたちも、このプロジェクトで、これまで三十曲ぐらい、水や森、自然をテーマにした楽曲を創ってきているんです。その中に、「水分の森」という曲があります。尺八と琴と十七弦という大型の琴を、三人で演奏する楽曲なんです。こちらに水分社があると聞いて、この曲を演奏するしかないと思いました。

町長 あそこは、町内で一番の名水といわれています。毎日何十人と、車で水を汲みに来る人がいるぐらいですから。やはりいい水は、みんな飲みたいんでしょうね。

コンサート翌日には 上平沢小学校で演奏も

柴崎 水の循環も含めて、わたしは小さな

循環をどんどん作り、食べものも地域で採れたものを地域で消費する方がいいと考えられています。地球の反対側から持ってきて、というのは、どうしても理解できません。

町長 わたしも同感です。排気ガスを出して車で運んだり、燃料をいっぱい使う飛行機で運んだりして、それで味の良し悪しを語るのとは変だなと思います。

柴崎 本心にそう思います。

町長 今、家畜ふん尿と食品残さと一緒にいい土壌改良材を作ろうという取り組みを進めています。それを農家の人たちに使ってもらい、そこで採れた良い農作物は先ず学校給食に使う。その次は町内で食べる。それでも余ったならば東京へ出荷する。

柴崎 「もし、そういうものを食べたかったら、こちらに移り住んでください」と言う方がいんじゃないんですか。身近で採った新鮮でおいしいものを食べられるという点では、地方が絶対豊かだと思っています。

町長 そうですね。門外不出にして「ほしかったら来て買ってくれ」と。

柴崎 食の問題、森林資源の循環、経済の

循環など、百年後、二百年後のことを考え、先進的に取り組まれているということは、すばらしいと思います。今回のプロジェクトを通じて、わたしは、紫波町の取り組みや情報を発信したいと思っています。

先日、紫波町産の木材で建てた上平沢小学校を拝見させていただきました。中は木の香りに包まれて、すごく心地いい空間で、「こんな場所で生活できたら幸せだろうな」と感じました。

今回、コンサートの翌日に、上平沢小学校で、和楽器のミニ演奏を考えています。和楽器の素材も木ですから、木に包まれた空間で演奏すると、木同士の共鳴もあると思いますので、ぜひ子どもたちに体験してほしいなと。

町長 上平沢小学校は紫波町産の木材で、町内の大工さんたちが技を生かして造るといことを一つの大きなテーマとした「循環型の町づくり」の事業の一つです。

今までの建築物は鉄筋コンクリート製で、建材のほとんどが町外の工場で生産されるものでした。そうなると約七五パーセント以

上のお金が町外に出て行きます。町産材を使い、地元の大工さんが技術を駆使して施工すれば、外に出ていくはずのお金が町で使え、経済を潤すことになります。

その上平沢小学校で演奏していただけるというのは、たいへんありがたいことですね。

柴崎 子どもたちの目には、舞台上の演奏家たちは「自分たちとはちよと違う存在だなあ」と映ると思うんです。その演奏家たちが、Tシャツにジーンズという服装で学校に行くかもしれません。あ、なんだ、近くで見たら普通のお兄ちゃんなんだというようなギャップを感じるでしょうし、「そういう人たちに楽器を教えてもらたよ」という経験ができれば、また違った意味で心に残ると思います。

今回、わたしたちは北上川と文化という点にも視点を向けようと思っています。北上川にまつわる文化というのは、これまでいろいろ文学にも出ていますし、宮沢賢治や石川啄木のお話も聞きます。

町長 やはり、北上川に関してはこの二人でしょうね。石川啄木と縁があるといえ



NGOウォーターネットワーク代表 柴崎 勉さん/昭和三十六年生まれ、埼玉県出身。大学卒業後、株式会社服部セイメイに入社し海外営業担当の他、新規事業開発を手がける。その後、地域計画や地域振興に関するコンサルティングとプロジェクトを行なう。水に関する研究・活動はライフワークであり、水のつながりを多面的に捉え活動するNGOウォーターネットワークを主宰し、地球規模で活動を行なう。二〇〇三年三月、第三回世界水フォーラムでは優秀パートナー機関として表彰され、第五回(二〇〇三年)日本水大賞・審査部会特別賞を「水の音原風景」プロジェクトで受賞。水に関する執筆や講演も多い。

6月8日実施

森林資源循環フォーラム

紫波の森が 学校になった!

森や木、山のことをもっとみんなで知るために、紫波みらい研究所主催の森林フォーラムが開催されました。はじめにラ・フランス温泉館裏の林の中でマリンバ奏者坂垣あや子さんと熊谷綾子さんのデュオで「いつも何度でも」「風のとおりの道」などの演奏があり、風に揺れる葉音と鳥の鳴き声とともに美しい音色が奏でられました。

その後、参加者は会場を上平沢小学校に移し、町産材で建てられた校舎や旧校舎などのパネルを観賞。子どもたちは小学校建築時の端材を使って大工さんから教わりながら鳥の巣箱作りに挑戦しました。同じ端材を使って丁寧に作られたベンチも販売され自宅の庭にと買い求めている人もいました。

午後からは校内の多目的ホールで「紫波の森が学校になった」をメインテーマに岩手大学農学部付属演習林助手の山本信次さんの講演や、校舎建設にかかわった人たちの発表と、ディスカッションがありました。外の日差しは強い日でしたが、木造校舎の中には心地よい風が通り抜け、200人ほどが思い思いに床に腰を下ろして聞いていました。



紫波町出身の野村胡堂です。同じ学校の上級生だったことから二人は東京でも交流があったそうです。

柴崎 そうした人たちを育んだ北上川というのは、比較的ゆるやかな流れだと聞いています。今回は、体験学習と演奏会で構成し、後半がコンサートになりますが、音楽を通してこのゆったりとした北上川の原風景を感じていただくような内容にしたいですね。

町長 ただし北上川も時折暴れて大きな被害を出すことがあります。ただその反面、そうした川には肥よくな土地が形づくられていくのも事実です。紫波町には約六千町歩の耕地がありますが、約二千町歩が流域です。

この肥よくな土地で、いい農作物が育ち、結構な収量がでる。全国的に見ても収量が高いと思います。そういう恩恵を受ける面

はあるんですが。

柴崎 洪水で、水が運んできたミネラル分が、いい農地に育ててくれるんでしょうね。確かに洪水による被害は問題ですが…

町長 そして、この川を中心に交流の場が広がり、文化が都から来たんでしょね。

柴崎 今回、地元や町の方と連携しながらプロジェクトを進めています。その一環として、北上川の水のつながりを物語風に構成していくコンサートの後半では、「語り」を地元の有線放送の佐藤博子さんにやっていただくことになっています。

町長 佐藤さんは有線放送で全国優勝した方で語り口は上手ですから。

柴崎 そうですか。基調講演の方も、「川を知る会」の会長の中野英明さんからお話をいただきます。NPO法人紫波みらい研究所の方たちとも、体験学習の「Tナード」で連携を取っており、有意義な場になればな

と思っています。

これをきっかけに 北上川流域の連携を

柴崎 六月十七日に、秋篠宮殿下ご臨席

で日本水大賞の授賞式がありました。わたしたちも、このプロジェクトで審査委員会特別賞をいただきました。活動の発表の中で、この北上川コンサートのチラシを皆さんにお配りし、紫波町での実施のお話をしたところ、関心を持っていただきました。審査された方たちからは「このようにユークな視点で、心、感性に訴えかけるものは、これまでにあまりない取り組みだ」と、非常に高い評価をいただきました。

町長 ああそうですか、名誉なことですね。このポスターは、川の雰囲気もいいし、幻想的じゃないですか。

柴崎 そうですね。これは、わたしが下見のときに撮った写真です。夕方から夜のイメージを紫を基調にして、紫にけむる紫波を表現したものなんです。コンサートの最後には、川に光を入れて終わるようになっています。と思っています。

これをきっかけに、今後は北上川流域の河口の方までコンサートを実施していきたいと思っています。

今回、ぜひ流域の方と子どもたちが、北上川に対してこれまでとは違った形で関心なり、触れあえる機会を持っていただければありがたいなと思っています。

町長 こうしたイベントをとおして、参加する皆さんも「これは！」と改めて気づくところもあると思います。そんな新発見をわたしも期待していますので、よろしくお願いします。

正しく

肝炎を理解しましょう



肝臓病について正しく理解し、適切な予防や療養をするため、シリーズで渡辺内科医院渡辺立夫院長に教えていただきます。

予告では生活上の注意点でしたが、その前に現在最も問題となっているC型肝炎についてももう少し詳しくお伝えします。

C型肝炎の経過

C型肝炎はつい最近の一九八九年にウイルスが発見されました。感染すると、どの年代であっても持続感染になりやすく、自然治癒は二〇～三〇パーセントと低いため多くの例はキャリア（持続感染状態）になってしまいます。

感染したときに急性肝炎を発病する例もありますが、ほとんどは何の症状もなく経過し、十～十五年ほどたってから慢性肝炎になり、肝機能が悪くなって初めてC型肝炎に感染していたとわかることが多いのです。（図-1）

慢性肝炎になった患者さんの三〇～四〇パーセントはその後十年前後の経過で、

肝硬変に移行し、肝硬変になると年間七パーセント前後の確率で肝臓がんが出現します。もちろんこれに飲酒が加われば経過はもっと短くなります。現在では肝臓がんの患者さんの実に八五パーセントにC型肝炎ウイルスが認められるといわれています。

このC型肝炎は全世界では二億人、日本では二百万人の患者さんがいると推定され、そして、紫波町にも多くのキャリア（岩手県平均の三倍強）の人がいます。

将来的に肝硬変や肝臓がんを引き起こしかねないC型肝炎を早期に見つけるためには、通常一般に行われている肝機能検査だけでは充分ではありません。感染しても自覚症状がなく、肝機能も正常な無症候性キャリアの患者さんもいるからです。

C型肝炎の診断はC型肝炎ウイルスの感染のみによって出現するHCV抗体を検査することにより確定することができます。

次回は、C型肝炎の感染経路を中心に日常生活上の気をつけたいことについて説明したいと思います。

C型肝炎は肝硬変への進行をくい止めることが大切

図- 1
C型肝炎の自然経過

合併特集
VOL.7

みんなで考えよう 市町村合併



紫波町周辺市町村の財政状況を比較

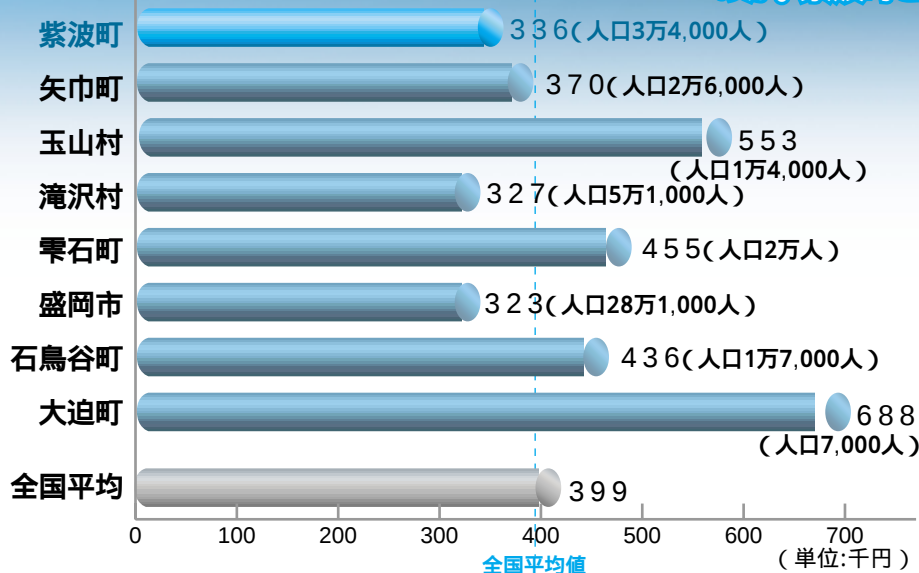


なお資料は、すでに公表されている平成十三年度財政状況（総務省統計）を用いています。数値は、すべて住民一人あたりに換算しています。

先に行った市町村合併アンケートでは、知りたい情報として、税や公共料金、財政状況など金銭に関わる項目に関心が寄せられました。また、合併を推進する理由には、国や地方の厳しい財政事情があることも、すでにお知らせしているとおりです。

では、身近な市町村の財政状況はどうか。紫波町と周辺7市町村の比較をしました。

住民一人当たりの歳出

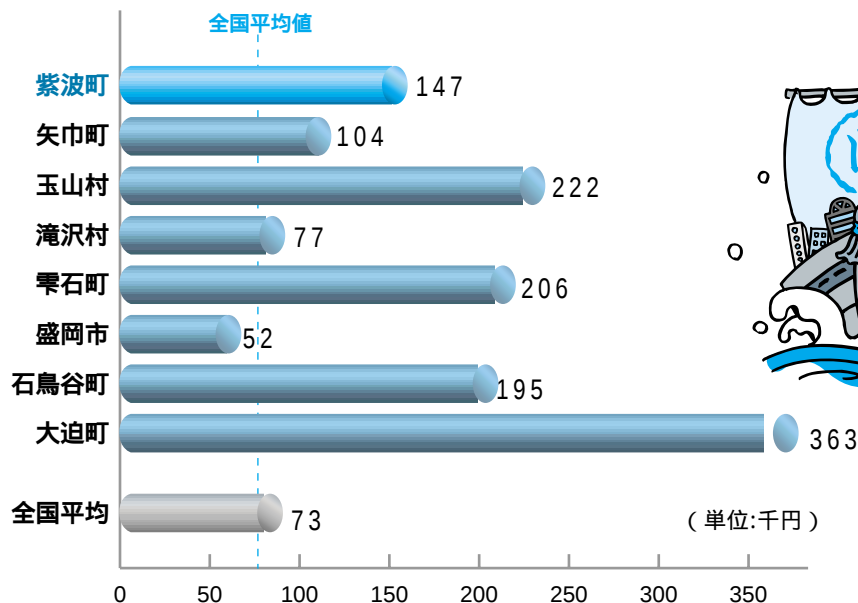


始めに歳出の比較をしてみましょう。盛岡市の住民一人当たり歳出は三十二万円で、最も少なく、滝沢村、紫波町、矢巾町の順に多くなっています。

反対に人口が少ない町村では、住民一人当たり歳出が多くなっています。人口の規模によって、一般にいわれているスケールメリット（規模の経済効果）に、差が出ていることがわかります。全国平均は、三十九万九千円で、全国の都市別平均三十七万六千円。町村平均は四十八万六千円となっています。本町は、どの平均よりも下回っています。

グラフはすべて住民一人当たりの金額です

地方交付税

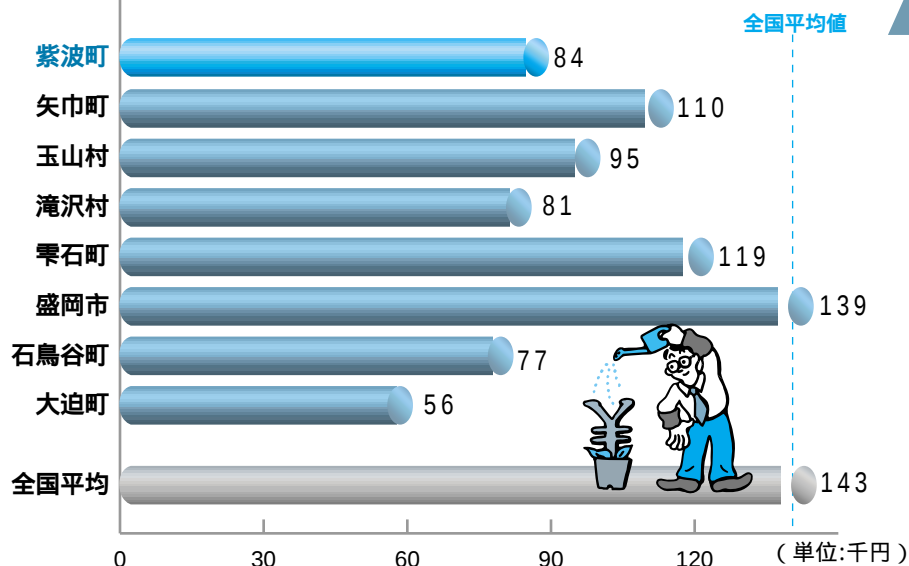


次に親からの仕送りにたえられる「地方交付税」と自らの稼ぎである「地方税」を比べてみます。

地方交付税で、全国平均を下回っているのは盛岡市で、滝沢村は全国平均レベル。ほかは、全国平均を上回っています。

自らの稼ぎ(地方税)の収入が少ない分、親の仕送りに依存している町村が多いことがわかります。

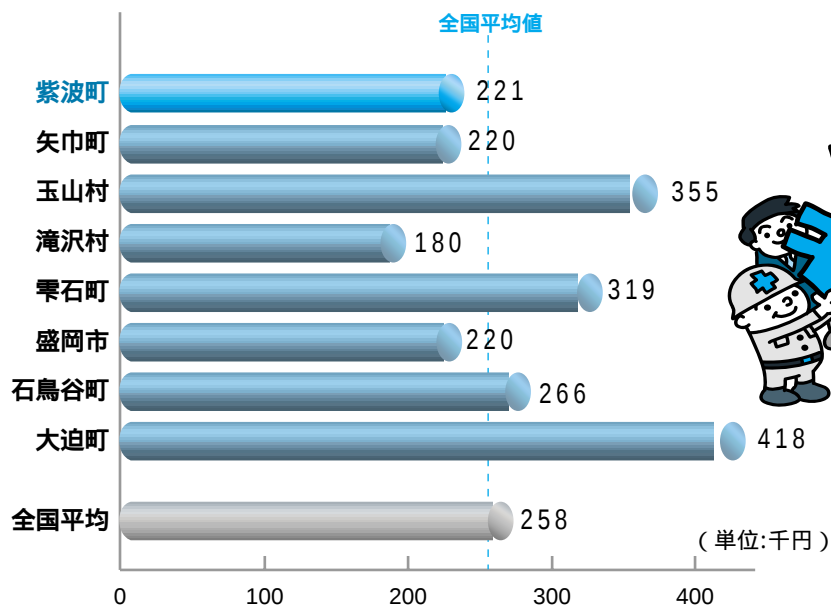
地方税(市町村税)



地方税では、全国平均レベルといえるのは盛岡市だけで、ほかの市町村はそれ以下となっています。県内では、盛岡市が最も財政力指数が高いことを考え合わせると、全国と岩手県の経済力の格差が著しくあらわれた結果となっています。

本町は、歳出が一人当たり三十四万円です。地方交付税で歳出の四四パーセント、町税で二五パーセントをまかなっていることになります。

経常経費



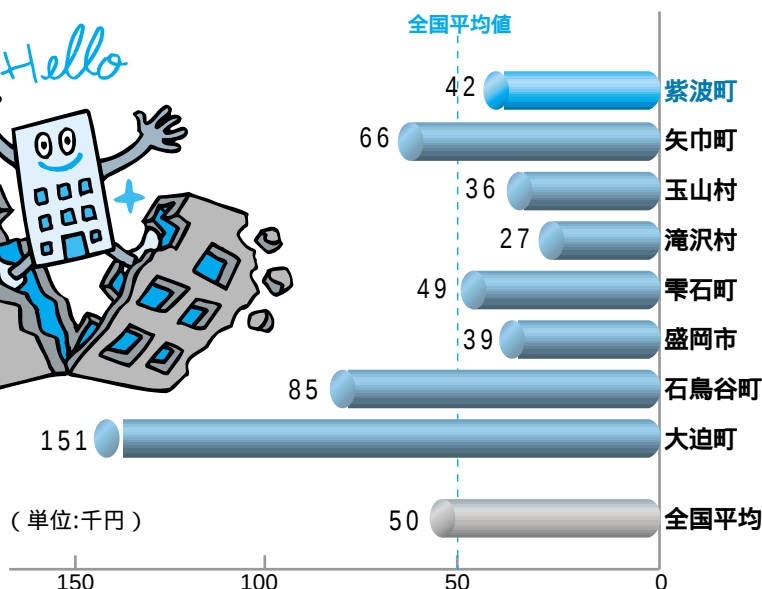
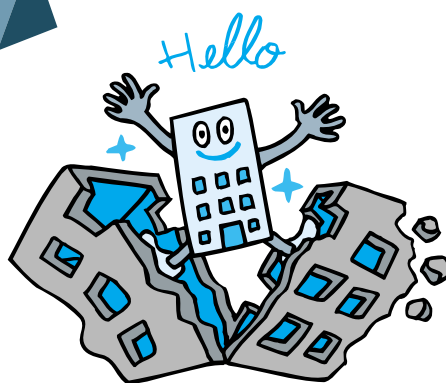
歳出のうち、人件費、公債費、扶助費、維持補修費など、経常的な経費について比較してみました。

全国平均は二十五万八千円で、これを下回っているのは紫波・矢巾・滝沢・盛岡の四市町村です。規模の経済効果は、この項目で最も顕著に表れます。

滝沢村は、公営の児童福祉施設がないこともあって、他市町村よりも群を抜いて少なくなっています。

単独の建設事業費

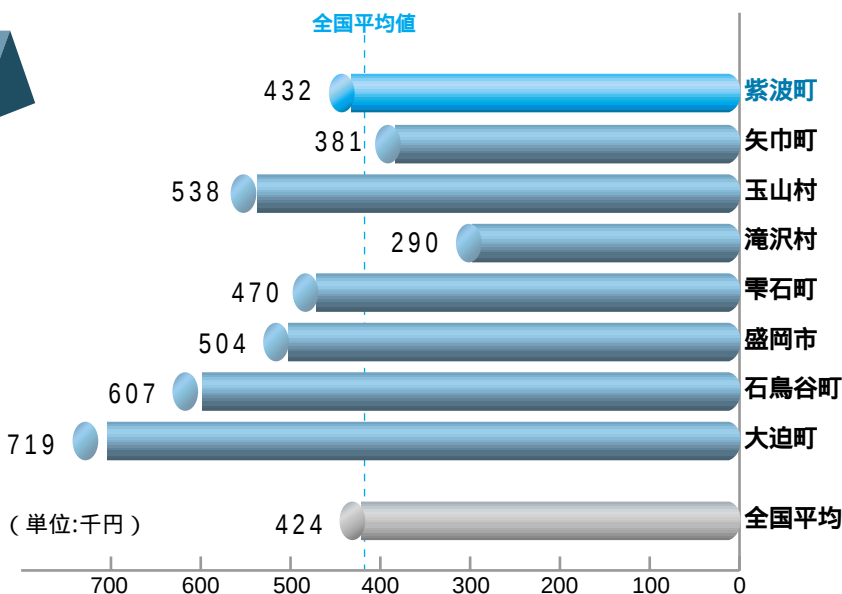
国から補助を受けない単独の建設事業費は、全国平均の五万円に対して、右のとおりとなっています。本町と盛岡市は約四万。滝沢村は二万七千円で極端に少なく、全国平均の半分程度ですが、村にとって必要な生活基盤の整備が適切に行われているか気になるところです。



平成13年度普通会計決算にみる将来財政負担

地方債の残高と翌年度以降の債務負担の合計から基金残高を差し引いたものを将来財政負担としてとらえ、比較してみました。

その結果、滝沢村が一人当たり二十九万円と最も少なくなっています。次いで矢巾町、本町の順で少なく、盛岡市は一人当たり五十万円で、人口が周辺町村よりも圧倒的に多い割には財政負担が多くなっています。本町は、ほぼ全国平均レベルとなっています。



関係六市町村がとりまとめ

合併問題研究会中間報告書

六月二十五日、盛岡地域合併問題研究会は、合併問題調査研究報告書(中間報告)をとりまとめました。この研究会は、盛岡・矢巾・滝沢・雫石・玉山・紫波の六市町村が、盛岡広域圏の合併問題について研究することを目的に、三月末に設立したもので、研究期間は当初六月末までとしていました。

今回の報告書が、中間報告となった理由は、このまま本研究会から合併任意協議会の設置に持ち込みたいとする盛岡市とは対照的に、周辺の五町村は、合併に極めて慎重な姿勢であることによります。

最終報告までにさらなる研究を

本町は、合併問題調査研究に当たって、参加市町村ことに強みと弱みの部分を明らかにしていくことがお互いの理解と協力には不可欠であると提案しましたが、今回の研究では、その案は見送られました。時間的な制約があったこともその理由です。

従って、報告書の財政状況分析は、今回の特集のように、住民一人あたりといった分析ではなく、市町村それぞれの財政指標の経年変化などを表記するにとどまっています。

また、報告書の三分の二を占める財政シミュレーションは平成十二年度決算がベースであり、地方税財政改革の行方が不透明な昨今の状況に照らすと、信頼性に欠ける内容となっています。

本研究会の使命は、市町村合併について住民が判断できる資料を作成することでしたが、結果は判断資料としての足りない内容で、さらに踏み込んだ研究が求められます。

中間報告書の具体的な内容は次号で紹介いたします。





自分でできることを無理せず、長続きする活動を 精神保健福祉ボランティア

複雑化する社会においては、ますます心の健康を損なう人が増えています。そんな精神障害者の支えとなり、偏見をなくそうと活動しているのが精神保健福祉ボランティアです。

精神保健福祉ボランティアは、心病む人たちが地域社会の中で自分らしく、あたりまえに生きていくことの困難さを知り、友人や理解者を求めていることを知っています。精神障害者と共に作業をしたり、心の問題に取り組んだりする中で地域社会で生活していく手伝いをします。また、多くの人びとと共に精神障害を正しく理解し、よき隣人となろうという思いで活動しています。

町でもそんなボランティアがさまざまな形で活躍していますが、その数はまだまだ不足しています。少しでも関心のある人は養成講座を受講してみませんか。特に難しいことはありません。当事者とかかわっていく中であなたなりの方法を見つけてください。

【上写真】三月に開催したあんべ光俊さんのトーク＆コンサートに障害を持つ人も出演／【左写真】三月には盛岡合同庁舎で焼物教室も開催／【下写真】ふれあいコンサートの打ち合わせ



精神障害とは

脳のはたらきがうまくいかないため、自分自身への安全や他者への配慮はある程度できるものの、日常生活を維持しがたい状態です。人生のどの時期でも、だれでも発病する可能性のある疾患です。

診断名としては統合失調症、うつ病、アルコール依存症、痴ほうなど実にたくさんの種類があります。



熊谷会長に話を伺ったのはギカンジウムの畑



ふれあいコンサートにも参加

がんばっています!ボランティア

ゆいっこの会(紫波町精神保健福祉ボランティアグループ)

ゆいっこの会は、平成九・十年度に紫波町と盛岡保健所が共催で開催した「精神保健福祉ボランティア養成講座」の修了生が平成十年に結成しました。会員は現在二十一人です。

活動は紫幸会(精神障害者家族会)やさくら会(精神障害者当事者会)の会員と交流を深めながら、精神保健福祉関連団体と共にイベントなどの企画や参加に協力しています。

また会独自の活動として、機関誌の発行や研修会への参加、会員の情報交換など資質の向上にも努めています。

「自分でできることを無理しないで、長続きする活動」をモットーに活動しています。

養成講座を若い人にも

ゆいっこの会会長 熊谷寛さん

星山の阿部節子さんの畑をお借りして、精神障害当事者とボランティアでギカンジウムを栽培し、今日はその球根堀に汗を流しているところです。精神障害者は偏見を持って見られ、バリアの外におかれがちです。精神保健福祉ボランティアは必ずしも今日のように労力の提供をすることのみではなく、偏見をなくすような言葉などを添えて働きかけることも大切な任務です。日中、自分の仕事がある人でも自分なりの方法で手伝ったり活動したりできます。毎年行つ「ふれあいコンサート」に一般の人が多く参加してくれるようになったのも、その成果の一つだと思っています。若い人たちがもっと関心を持ってくれるとうれしいですね。

平成15年度
受講者募集

精神保健福祉ボランティア養成講座

盛岡保健所の主催、紫波町・紫波町社会福祉協議会が共催し、精神保健福祉ボランティア養成講座」を次のとおり開催します。受講を希望する人は電話でお申し込みください。

■定員 十五人

■募集期間 八月十一日(月)まで(定員になり次第締切ります)

■実施期間 九月十一月までの全六回

■参加費用 無料(交通費・昼食代は自己負担)

■問合せ・申込 福祉課福祉推進室

☎ 672-2111
内線 1521・1522 有線 018921

日時・場所	内容
9月4日(木) 総合福祉センター 午後1時30分～4時	講話「こころの病気の理解」 ～総合失調症(精神分裂病)を中心に～ 講師 田園調布学園大学人間社会学部 助教授 伊東秀幸さん
9月19日(金) 保健センター 午後1時30分～4時	講話「精神障害者の生活支援について」 講師 岩手晴和病院社会復帰支援室長 山館幸雄さん グループワーク 家族会の活動について 紫幸会会長
10月9日(木) さくら製作所・ ワーク小山田工房 午前10時30分～午後2時30分	体験学習 作業施設の概要説明 作業体験
10月16日(木) 野村胡堂・あらえびす記念館 午前9時～午後2時	当事者との交流 テーマ「絵を通じて」 講師 画家 織田信生氏(高知県在住) 画家 東野健一氏(神戸市在住)
10月31日(金) 釜石市 午前9時～午後5時	岩手県精神保健福祉大会への参加
11月7日(金) 保健センター 午後1時30分～4時	講話「精神保健ボランティアの役割」 講師 精神保健ボランティアグループ 「ハーモニー」代表 関本日出子さん グループワーク 精神保健ボランティアとの交流を通して思うこと さくら会の皆さん ゆいっこの会の活動について ゆいっこの会会長 熊谷寛さん

経営品質会議と力を合わせまちづくり しわフェロー動き出す

6/29



この日出席したフェローは32人、一人ひとりに藤原町長から依頼書、経営品質会議議長の渡邊一雄さんからバッチが手渡されました。

しわフェローのバッチは町の木けやきに、北上川の流れと6月の田をデザインしたものです。



町民・企業・行政が三位一体となつたまちづくりを推進するため、さまざまな提言をする経営品質評価フェロー（しわフェロー）の活動が始まりました。今回はしわフェローに選ばれた人たちの依頼書とバッチの交付、そして町の現状を把握し、取り組むべき課題について認識を深めるためのセミナーが行われました。

「フェロー」とは、特定の地域でパートナーとして活動する特別会員を意味する言葉ですが、しわフェローの場合は紫波町経営品質会議と協働しながらまちづくりに関する活動を行います。

紫波フェローは自薦、他薦で選ばれた四十八人で、中学生から高齢者まで幅広い年代の町民と関東在住の知識経験者なども含まれ、町内外から広い視野での取り組みが期待されます。

経営品質会議のメンバーと合同で行われたセミナーでは経営品質会議の議長で元県立大学社会学部教授渡邊一雄さんの講演と、町の各課長からそれぞれの施策説明がありました。渡邊さんの講演は、しわフェローが目指すもの」と題し、三菱セミコンダクター社長としてアメリカで勤務していた時の体験をもとに「ボランティア活動をするということとは、人のためだけでなく、自分のためになるのです。しわフェローも三万四千人の中から選ばれたチャレンジャーとして活動してください」と参加した三十二人のフェローの皆さんを激励しました。

しわフェローのメンバーの皆さん

青	山	潤	也さん	上平沢
赤	川	安	子さん	大巻
阿	部	宥	藏さん	北日詰
市	川	善	紀さん	盛岡市
伊	原	総三	郎さん	東京都
岩	泉	康	喜さん	紫波中央駅前
内	城	弘	隆さん	日詰
内	山	寛	子さん	平沢
梅	沢	淑	子さん	赤沢
及	川	剛	さん	二日町
尾	形	文	智さん	高水寺
小	川	美	代さん	高水寺
尾	原	重	男さん	東京都
小	原	三	男さん	高水寺
金	子	真	也さん	矢巾町
河	村	幹	夫さん	横浜市
近	藤	英	一さん	上平沢
佐々木	アサ	ノさん		高水寺
佐々木	清	信さん		桜町
佐々木	良	一さん		中島
佐々木	玲	子さん		日詰西
佐	藤	観	悦さん	南日詰
菅	原	時	枝さん	南伝法寺
杉	本	健太	郎さん	高水寺
杉	本	晋	晃さん	高水寺
杉	諏		徹さん	東京都
鈴	木	弘	幸さん	日詰
高	石	直	行さん	東京都
高	橋	久	夫さん	北日詰
高	橋	義	夫さん	佐比内
竹	内	さえ	子さん	北日詰
千	葉	美百	合さん	二日町
富	岡	靖	博さん	桜町
畠	山	征	敏さん	南日詰
福	澤	征	子さん	江柄
福	田	英	喜さん	山屋
藤	尾	良	一さん	宮手
藤	田	智	香さん	赤沢
藤	本	涉	太さん	日詰
藤	原	静	子さん	二日町
藤	原	正	一さん	北沢
古	川	弘	典さん	東京都
古	沢	隆	男さん	北田
細	川	勝	浩さん	上平沢
細	川	真	人さん	高水寺
松	田	久美	子さん	犬渚
大	和	佐智	子さん	横浜市
吉	田	達	人さん	赤沢



中学生の運動部活動の集大成を発揮する日が、今年もやってきました。野球やサッカーなど外での競技は強い日差しの中で行われ、選手も応援の生徒も額に汗が光ります。

体育館や中学校のアリーナは、競技に差し障りのある風や光を入れられないため蒸し風呂のような状態での試合になりました。矢巾町体育館ではバレー男女の試合があり、男子は県大会シードになっている一中と、準優勝の二中が県大会に出場することになりました。

女子は矢巾北中が強豪で、紫波の三チームはなかなか対等な試合に持ち込むのも大変なほどです。第四試合で対戦した一中は、前半自分たちのペースをつかめず、いつもなら相手コート内に入るはずのサーブさえなかなか決まりませんでした。あせりとプレッシャーが中学生の肩ののしかかります。

しかし後半は顧問の先生から適切なアドバイスがあったのか、見違えるようなシーソーゲームを展開。白熱した試合となりましたが、惜しくも敗れてしまいました。試合の後は溢れ出る涙をタオルでぬぐい、お互いを気遣う姿が印象的でした。



ちょっとの工夫でこんなに楽しい 子育て支援グループ研修

6 / 16

社会福祉協議会主催の子育て支援グループスタッフ研修が、町内で活躍しているひよこひろば、にこにこひろば、なかよしひろばのスタッフ二十人ほどが参加し行われました。前半は佐藤淳子社会体育指導員を講師に、新聞紙や色ビニール袋を使ってリズムにあわせた遊びの実践を。後半は折り紙を使った動くおもちゃを日詰の上市芳子さんの指導で作成しました。上市さんは折り紙だけでなく、手袋を使った人形など多くのレパートリーを持ち、今回はペンギンの笛やしゅりけん、ヨットなど親子で一緒に作れるものを中心に教えてくれました。それぞれの子育て支援ひろばの開催日はお知らせ版カレンダーに載っていますので、日中小さなお子さんと二人で過ごしているお母さんたちは、どうぞ参加してください。



まちの
話題

地方振興局の仕事を広く住民に知ってもらうと共に、県民からの意見、提言を直接聴くために小田島盛岡地方振興局長はじめ、十四人の幹部職員が町を訪れ懇談会を開催しました。

会場になつたラ・フランス温泉館には町内の一般住民八十人ほどが集まり、地域の要望や各種制度への疑問、県政に対する提言などについて熱心に話し合われました。

特にBSE問題や牛肉のトレーサビリティについては、家畜保健衛生所長と住民の間で何度も意見がやりとりされ、注目の高さがうかがわれました。

盛岡地方振興局は、県公会堂と盛岡市役所の間の合同庁舎内にありますが、一般住民が直接訪れることは少なく、このような機会を通して「県民に開かれた、わかりやすい地方振興局」を実現するよう努力しています。



日詰小学校の六年生が江戸千家のお点前で抹茶をいただきました。日詰公民館主催のこの行事は地域のお年寄りともたちのふれあいを目的に毎年行われています。

始めに勤労青少年ホームの講座などで講師を務める福澤征子さんから日本のお辞儀「真・行・草」のやり方を教わり、その後あじさいに象られた甘いお菓子と抹茶を味わいました。きれいに飲み干せない子もいれば、もう一服いただきたいという子もいました。一度に四十人分を点てなければならぬ陰の水屋では、お手伝いにかけていた福澤さんのお弟子さんたちが大変急がしそでした。慣れない正座に足がしびれてしまう子どもたちもいましたが、日ごろ経験できないお茶会は、良い思い出となったことでしょう。

お辞儀も心をこめて ふれあいお茶会

草取りではたらく心を勉強 赤石小学校と老人クラブ福祉交流



老人クラブ白寿会が子どもたちに福祉の心を伝えようと、赤石小学校三年生六十三人と草取りや昔の遊びで交流しました。この活動は十年ほど続いており、老人クラブの参加者は朝早くからはりきって集まり、子どもたちとの約束の二時間目が始まるのを木陰で待っていました。三年生が玄関前に整列し開会のあいさつの後、一組二組分かれて作業を始めました。プール近くを担当になった子どもたちは植木の下草を慣れない手つきで取ったり、老人クラブの人が力マで刈った草を一生懸命集めたりしていました。下草を刈ってもらった植木周辺は見違えるほどきれいになり、木々もいきいきとしているように見えました。草取りで汗を流した後は体育館で輪投げ、お手玉、あやとりなどで楽しい時間を過ごしお互いに充実した一日となりました。



町では日詰商店街の「くらしのみちゾーン」指定（現在国に申請中）後の事業化を県に要望していますが、この度増田知事、振興局長などがその現地視察に訪れました。

「くらしのみちゾーン」とは歩行者・自転車車を優先した身近な道路で構成され、環境に配慮しつつ、ゆとりある美しい街並みを保つエリアのことです。日詰商店街を縦貫する紫波川井線は、銀行、飲食店や、町内農産物・加工品の販売、すこやか号の休憩所となるなんバザ・ホールなどが並ぶ地域密着路線ですが、日常歩行者の安全が確保されないという難点があります。国からこのゾーンの指定を受けると歩道設置などの整備事業を行う時スムーズに進められるようになります。

くらしのみちゾーン予定地の後、昨年要望したえこ3センターと炭化炉を視察しました。増田知事は町の循環型施策に強い関心を持ち、木造上平沢小学校の見学も希望しているとのこと。



「くらしのみちゾーン」のため 6/20 増田知事が町を視察

異聖歌さんってどんな人？ 6/28 童謡まつり盛大に開催

町が生んだ童謡詩人、異聖歌が亡くなって今年で三十年になります。今回で八回目を迎える異聖歌童謡まつりは、母校日詰小学校を会場に、同校四年生を含め三百人ほどが参加し行われました。三年ほど前からは、四年生が総合学習の一環として聖歌の生き方や残した功績などを調べ発表しています。発表ではゲストとして迎えた聖歌の甥にあたる馬場勝行さんなどに、質問に答えてもらつ場面もあり、子どもらしく素直で、工夫を凝らした演出に会場からは大きな拍手が起つていました。

また、聖歌が晩年まで二十五年間生活した東京都日野市で聖歌に関する資料を保管している博物館の学芸員北村澄江さんが、研究の一端を分かりやすく話してくれました。異聖歌は日詰小学校や紫波一中の校歌も作詞しています。





ラ・フランス温泉館ではもちつき、産直コーナー、各種出店や郷土芸能などのイベントを開催する第4回ラ・フランスまつりを開催します。また当日行うフリーマーケット参加者も募集しています。

■期日 7月27日(日) 午前9時～午後5時

■場所 ラ・フランス温泉館前駐車場

■フリーマーケット 1区画1000円の出店料(ラ・フランス温泉館の入湯優待券2枚進呈) 20区画。午後2時終了

■問合せ・申込 ラ・フランス温泉館 ☎673-8555



日詰商店街では今年も夜市などのイベントを開催します。演奏会に歌謡ショ-、子どもたちも楽しめる企画がいっぱいです。詳しいイベント内容は、折りこみチラシをご覧ください。

また、街の駅なんバザ・ホールも元気に営業中。イベント、掘り出し物がいっぱいなのなんバザ祭り、商店街のうまいもの食堂まつりにもご期待ください。

■問合せ 紫波町商工会 ☎672-2244

日程	時間	名称
7月26日(土)	午後6時～9時30分	第1回ひづめ夜市
8月9日(土)		第2回ひづめ夜市
8月10日(日)		ナイトバザール
8月15日(金)	午後6時30分～9時30分	昔なつかしひづめ盆踊り夜市
9月23日(秋分の日)	日中開催	紫波フルーツの里まつり



今年も「第32回紫波夏まつり」を8月10日(日)に紫波総合運動公園を主会場として開催します。今年は盆踊り、花火のほかに会場内に舞台を設定し、グループでの発表の場を設けます。発表は、踊りに限りませんので、日ごろの練習の成果を披露する絶好の機会です。また、「みんなでつくる! 夏まつり」ボランティアスタッフも募集しています。いずれにもたくさんのご応募をお待ちしています。

■問合せ・申込 紫波夏まつり実行委員会(事務局 商工観光室内) ☎672-2111 内線 3242



(財)県スポーツ振興事業団では、御所湖広域公園で夏のイベントを開催します。

■つなぎスイミングセンター 7月12日(土)～8月24日(日)(午前9時30分～午後4時30分)まで営業。初日の7月12日は無料開放になります。

■湖上フェスティバル 7月27日(日) 午前9時～午後1時。カヌーやボートの体験試乗ができます(ただし小学校4年生以上)。

■問合せ (財)県スポーツ振興事業団 ☎689-2213



県林業技術センターでは、夏休みの森林教室として「親子森の教室」を開催します。テーマは「森の体験『森を知り、林に親しむ夏休み』」。いわて森林インストラクターの指導で、ネイチャーゲームや昼・夜の森林散策を楽しめます。皆さんも親子で宿泊し、自然の豊かさを実感してください。

■期日 8月5日(火)・午後1時集合、6日(水)・正午解散

■場所 県林業技術センターとその周辺山林

■参加費 1人3000円(1泊2食の宿泊費、傷害保険料、実習材料費など含む)

■募集定員 30人(先着順) 7月28日(月)で締切。子どもだけの参加も受け付けますが、相部屋になることがあります。

■問合せ 県林業技術センター ☎697-1536 内線 123, 130

町民課でも税証明書を発行します

7月から次の税証明書を町民課で取り扱っています。なお、いままでどおり税務出納課でも税証明書を発行します。

○申請方法 町民課に備え付けの申請書に記入し提出してください。本人以外が申請する場合は、委任状が必要になります。軽自動車の納税証明は委任状は不要ですが、車検証が必要。

○持ち物 印鑑



新たに町民課で取扱う証明 (現年分のみ)

- ・所得 課税証明書
- ・納税証明書
(軽自動車の継続検査用)
- ・固定資産証明書

新しい 農業委員の紹介

これまで務めていただいた高橋利明さんに代わり、JAいわて中央推薦により7月20日、高橋節也さん(南伝法寺)が新しい農業委員に選任されました。



業委員に選任されました。

離職した人たちを支援 事業主の皆さんご協力を

厚生労働省では、不良債権処理の影響により離職した人たちの早期再就職支援のために、雇用再生集中支援事業を実施しています。おもな内容は、離職者の雇い入れに対する奨学金の支給、実践的な教育訓練の実施、民間再就職支援会社を活用した再就職支援サービスの提供、労働移動支援に関する助成金の支給などです。このほかに、創業などに関する情報も公開しています。詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。

・雇用再生集中支援事業

<http://www.mhlw.go.jp/general/s-eido/syokuan/saisei.html>

・雇用再生集中支援事業

<http://www.mhlw.go.jp/general/s-eido/josei/sougyou/index.htm>

・問合せ 岩手労働局職業安定部職業対策課 ☎604-3005

来春卒業の高校生などを対象に自衛官募集

自衛隊岩手地方連絡部では右表のとおり自衛官の募集を行います。詳しい資料請求用パンフレットは町役場、町内各公民館、総合体育館、勤労青少年ホーム、紫波中央駅などに備えてあります。

・問合せ

自衛隊盛岡募集案内所 ☎641-5191、
総務課消防安全室 ☎672-2111

覚醒剤など 薬物乱用を防止しよう

紫波警察署では覚醒剤の根絶を目指し、薬物乱用防止を呼びかけています。昨年中に全国で覚醒剤取締法違反により検挙された人は1万6000人を超え、押収量は約400kgにも上っています。県内では50人が検挙され、57gの覚醒剤が押収されました。

覚醒剤やシンナーなどの薬物を乱用すると精神障害をきたし、殺人や放火などの凶悪事件を引き起こすことがあります。「気分が良くなる」、「やせる」などの甘い言葉や軽い気持ちを持たず、はっきりと断りましょう。

警察では覚醒剤など薬物問題をはじめ各種の相談窓口を設置しています。ぜひご相談ください。

・問合せ・相談 警察安全相談電話 ☎654-9110 短縮ダイヤル 9110

シイタケ料理に あなたのアイデアを

県では「平成15年度岩手県しいたけ料理コンクール」の参加希望者を募集しています。最優秀賞を受賞した人は全国大会への推薦も行われます。

・応募資格 県内在住のアマチュアの人

・応募方法 応募用紙に料理名、材料(4人分)、材料費(2000円以内)、作り方、所要時間、住所、氏名、職業、年齢、電話番号を記入し8月29日(金)必着で郵送が直接応募。その後書類審査を通過した8人で実演審査の上入賞者を決定。

・応募(応募用紙)・問合せ 県流通課しいたけ料理コンクール係 ☎629-5731



募集する自衛官	種 目		資 格	受付期間	1 次試験
	防衛 大学校 学生	推 薦	高校卒業(見込)21歳未満	9月5日～9日	9月20・21日両日
		一 般			11月8・9日
	防衛医科 大学校学生			9月12日～ 10月10日	11月1・2日
	看護学生				10月19日
	一般曹 候補学生		18歳以上24歳未満	8月4日～ 9月10日	9月20日
	曹候補士		18歳以上27歳未満		男:9月中旬 女:9月26～27日
	2等陸海空士				
	航空学生		高校卒業(見込)21歳未満		



紫波 フォト 歳時記

残したい日々の生活・風景などを、あなたの秘蔵・自慢の写真で紹介

あぜ
畦に群れ咲くニンソウ

村井 左保さん(日詰)の作品

四月の終わりに山屋地区で撮ったニンソウの群落です。田んぼのわきに咲いている花が、西洋タンポポではなくニンソウだったことにとても驚きました。

白いかれんな花が、一面風にそよぐ姿は本格的な春の訪れを告げているようでした。葉が毒をもつヤマトリカブトと似ているので、気を付けてください。



あなたの作品をお待ちしています 応募先 〒028-3390 紫波町役場 環境課「紫波フォト歳時記」係 ☎672-2111 有線 01-8972

〔作品名〕アンパンマンのキーホルダー

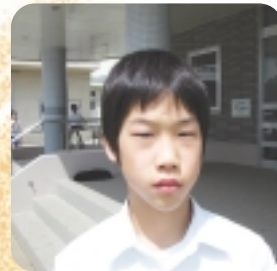
近藤 圭さん(紫波第二中学校2年)

ほったや目のふくらみを出すために枠になる木を丸くふくら掘るところに工夫があります。家では漫画本を読むのが好きで、学校では美術でこのような作品を作る時間が大好きです。



〔作品名〕龍の字を象ったキーホルダー

工藤博也さん(紫波第二中学校2年)



シリコンを彫刻刀で切り抜いて、溶かした金属を流し込みます。周りの枠とどうしても放さなければならぬ部分が動いてしまい苦労したそうです。海・川での釣りが大好きで、赤沢や佐比内の川に友だちとよく出かけるそうです。



〔作品名〕篆刻「希望」

高杉明日香さん(紫波第二中学校2年)

一番上の星のような形を掘るところが難しかったですと言いますが、手先を使って何かを作るのが得意というだけあって丁寧な仕上がりの作品です。部活動ではソフトボールのキャッチャーをやっています。



オール・コテージ
中高生の芸術